

KC3を卒業する左から松田雄志さん、
吉田海里さん、末吉遥さん＝県警本部



サイバー防犯 大学生に感謝状

県警、活動終える代表者へ贈呈

大学卒業を機に、警察と協力して未成年者を狙ったネット犯罪被害を防ぐ「サイバー防犯ボランティア」

(KC3)の活動を終える大学生に対し、県警は16日、関連する各大学の代表者に感謝状を贈った。

KC3は2011年に熊本学園大学(熊本市)で始まった取り組みで、略称は「くまもと・サイバー・産学官」を意味する。県サイバーセキュリティ推進協議会の助成を得て、インターネット上の有害情報の発見・通報活動を行う。現在は

熊本県立大、東海大熊本キャンパス、崇城大も参加し、4大学計77人の学生で構成する。

今年度卒業する学生は23人。県警本部であった感謝状の贈呈式には熊本学園大、東海大、崇城大から3人が出席し、代表を務める熊本学園大の吉田海里さん(22)が、県警幹部らに活動報告をした。

今年度はコロナ禍のため、自宅のパソコンでパトロールすることが多かったという。未成年者の援助交際や薬物取引をほのめ

かすツイッターなどのつぶやきをアプリの運営側に通報し、事件に発展する可能性のある内容は県警に連絡してきた。活動が評価され、昨年11月には「学生ボランティア賞」を受賞。取材に対し、「犯罪が意外と身近な場所で起きていくことに驚いた」と話した。

吉田さんらは卒業後、県内のIT会社などに就職するという。吉田さんは「これまでの経験を生かし、自分が発信する側になったときは一度立ち止まって、情報リテラシーについて考えたい」と語った。

(屋代良樹)